

郡山市環境審議会 会議録

会 議 名 令和２年度第２回郡山市環境審議会（書面審議）

日 時 令和２年９月１８日（金）から令和２年１０月２日（金）まで

出 席 者 難波謙二会長、伊藤耕祐副会長、會田久仁子委員、大場真委員、
栢場龍子委員、高橋敦司委員、滝田良子委員、出村さやか委員、
野村徹委員、橋本健委員、長谷川啓委員、古川雄二委員、
古谷博秀委員、三浦吉則委員、湯浅大郎委員（１５名）

欠 席 者 （０名）

議 案

議案第１号 第三次環境基本計画の年次報告について（意見聴取）

議案第２号 （仮称）郡山市地球温暖化対策総合戦略における目標設定とロードマップについて

資 料

１ 議案第１号関係

- ・ 資料１ 郡山市地球温暖化対策実行計画[区域施策編]実績報告
- ・ 資料２ 郡山市エネルギービジョン 実績報告
- ・ 資料３ 第五次環境にやさしい郡山市率先行動計画実績報告

２ 議案第２号関係

- ・ 資料４ （仮称）郡山市地球温暖化対策総合戦略における目標設定とロードマップについて
- ・ 資料５ （仮称）郡山市地球温暖化対策総合戦略 策定スケジュール
- ・ 資料６ 【参考】（仮称）郡山市地球温暖化対策総合戦略 骨子(案)

会議内容

１ 開 会

令和２年度第２回郡山市環境審議会は「郡山市環境審議会書面審議実施要綱」に基づき、書面審議により開催した。

委員１５名のうち、出席者は１５名であり、郡山市環境審議会条例第５条第２項に規定する、委員の過半数の出席があるため、この審議会は成立している。

2 議 事

(1) 議案第1号 第三次環境基本計画の年次報告について（意見聴取）

○ 委員からの意見

難波謙二会長

1 温室効果ガス排出量削減目標

民生と運輸について、クールチョイスも自動車の選択も利便性が同じであれば、家庭の経済的優位性があれば削減が進むと思われる。CO₂排出が少ない選択を誘導するような補助金や税金の軽減など市でできることはないでしょうか。

再生可能エネルギー導入が進んでいるのはよいです。

2 ごみ排出量

ゴミ内容の組成調査を通じて、分別や3Rの徹底でごみ排出量の低減と再生利用の向上が見込まれるとのことですので、どのように分別を徹底するかが課題、分別や3Rの具体的な普及策を講じても効果がなければ、有料化も選択肢だと思います。

3 カッコウの生息

調査参加者数を高く保ちながら、引き続き調査を継続できるよう、小中学校への協力依頼など支援したら良いと思います。

4 基準達成率

引き続き取り組みをつづけたらよいとおもいます。長期的傾向を含めて紹介してはいかがでしょうか。

5 イベント参加者

コロナ状況で伸びないのはやむを得ない。レジリエンスを発揮するところですね。この機会にwebでの発信充実を目指してはどうでしょうか。

會田久仁子委員

目標を数値で定め、客観的に評価できることは良いことと思います。その上で、当初の見直しとは、このコロナ禍の社会では大きく違いがでてしまったものと推察できますが、一步ずつの前進が期待されます。

特に、温室効果ガス排出量や、ごみ排出量については、この“巣ごもり”状況下では、改善どころか、後退が予測されます。目標達成に向けて、少しずつでも進めていきましょう。

カッコウの生息数には大きく興味を持ちました。今、すずめが、いつごろとの比であったかはうるおぼえですが、6割に減っているという報道をみました。同じようなことが言えるのではと思われます。ここ数年、開成山や五百淵あたりでのカッコウの声を聞かなくなりました。

大場真委員

環境指標1-②のみ達成できていないことが、台風十九号の被害があったとはいえ、残念です。環境目標の達成は、持続可能な社会の達成と同じ目標であるので、今後定量指標(KPI)にこだわらず包括的な評価もされるように望みます。

栢場龍子委員

- 1 災害の影響により大変ご苦労されたと事と思います。しかし、目標に向かって、着実に進行している数値が表わされていると思います。
 - 2 集団資源回収量の減少は、業者の集収率が多くなった事、又、高齢者が収積所に運んで来られなくなった事等が、微妙に影響しているのではないのでしょうか。
 - 3 大変恥ずかしい事ですが、カッコウの生息状況が自然環境の状態を表わす目安に成る事を知りませんでした。(調査参加者の減少は大変残念ですが、減少の理由は何でしょうか)
 - 4 工場・事業場・河川等大きな数値の有る場所での大幅な目標達成は大変心強く感じました。努力された成果だと思います。
 - 5 今後も環境等のイベントを多く開催し、多くの参加者に環境に感心を持って頂きたいと思います。
- ◎ 何年か後のレジ袋の成果が楽しみです。

高橋敦司委員

ごみの削減については、市民一人一人の意識が重要なため、ごみの処分にかかる市の予算等を分かりやすく公開し、コストを下げる必要性を認識してもらいたいと思う。ごみ処理の有料化も検討すべき時期ではないだろうか。

自動車の保有台数が増加している中、環境性能の高い自動車を購入した人を対象にした市独自の補助制度等は設けられないだろうか。

滝田良子委員

・ 取り組みの柱 1

1-① 温室効果ガス排出量の目標達成について

目標値に少しなりとも近づけるため、今後においてもクールチョイス啓発活動を実施すべきと考えます。まずそのためには、企業等との連携強化を図り、各企業それぞれに「社内啓発運動」を行うためにも賛同登録に向けてロゴマークの使用への普及。また、一般市民に対しては、広報誌等を通しコンセプトをわかり易く伝えていく。

例えば省エネ・エコバック運動・食品ロス削減・古い機種 of 電化製品の見直しが効果的であること、協力した場合にはポイントの付与をするなど他市の事例を参考に「こおりやまゴー!! COOL CHOICE」など郡山方式作成に企業や市民の協力を呼びかけ運動はどうでしょうか。

・ 取り組みの柱 2

2-② リサイクル可能な資源物の再利用について

既に実践を行っている他市の状況を参考に、ゴミ分別の徹底化に向けていくことが重要と考えます。

当該市においては、従来よりも町内会活動の一環として資源回収が行われております。また、最近スーパー店内での回収も見られるようになりました。この様に地道な活動がいかに大切であるか。これを踏まえ企業や市民の一層の協力を図り、さらに広めていくためにも何らかの助成制度が設けられたら如何かと思います。

例えば、ポイント券の発行を行い粗大ごみ等の収集に使用ができるなど。さらに、企業や一般市民の日々の生活の中で実践していく、エシカル消費の推進を小・中・高生等の教育活動も含め市民全体のお力をお借りしながらの市民啓発運動は如何でしょうか？市民の皆様とにかく協力したい（貢献、達成感など）行動計画の構築が必要不可欠であると思います。特に小・中・高生等の教育が今後の地球を救うカギを握ると言っても過言ではないと思います。

出村さやか委員

全 13 指標中◎と○が 8 指標、達成率約 6 割というのをどう評価するのか、悩ましいな、という点以外は特になし

橋本健委員

地球環境にやさしいまちづくりを考えた場合、安定した環境が確立した上での対策と考えます。

昨年のような東日本台風被害が出ますと、環境指標そのものが崩れてしまいます。

当社は、2011 年 3.11 以降、放射性物質から里山を再生する目的でバイオマス発電に取り組んでおります。県産ペレットは、まだまだバーク（表皮）を使える状態ではありませんので、森林の再生を進めていただきたいと思います。

古谷博秀委員

温室効果ガスの排出量について、減少傾向にあるが、残念ながら目標値に到達できなかったが、理由が自家用車の増加とのこと、その対策として F C V などの次世代自動車の導入促進とのことですが、目標に対して、どのくらいの台数どのような次世代自動車が入ればよいかなどの試算もあると、より具体的な対策がとれるように思います。一方、コロナの影響もあり、実際に自家用車の利用は増えてきているように思います。これらの状況も視野に入れた分析が必要のように思います。

市の事務及び事業による温室効果ガス排出量については、台風の影響などを除いた値も併記して、実際の取り組みの効果を評価できるようにしたほうが良いように思いました。

環境啓発のイベントについては、コロナの影響も出てくると考えると、通常のイベントでの目標達成は非常に難しいと思われ、W E B などをうまく利用した形を検討いただけると、目標値に近づくことができる可能性があるのではないかと考えています。

湯浅大郎委員

第三次環境基本計画に定めた環境指標の年次目標値を達成できなかった項目については、東日本台風の発生等やむを得なかった事業が実績にどの程度影響したのかを推計した上で、次年度以降、着実に目標を達成していけるよう、精神論ではない具体的対策と行動計画の立案・実行をお願いします。

なお、「自然と共生できるまちづくり」の目標にあるカッコウの生息数現状維持に関して、日本野鳥の会郡山支部が 1994 年以来 26 年に亘り継続実施してきた、市内の小・

中学校の協力に基づくアンケート調査は今年度（2020 年度）をもって終了し、今後は長年の調査から得られた知見に基づく出前講座の実施など環境学習の充実に軸足を移していくこととなりました。時を同じくして五百淵公園で放射性物質の低減と森林整備を目的とした「ふくしま森林再生事業」を実施することが決定されており、これらの取り組みが身近にある自然の再生と市民の意識啓発につながっていくことを期待します。

(2) 議案第 2 号 （仮称）郡山市地球温暖化対策総合戦略における目標設定とロードマップについて

賛成 15 人 反対 0 人

提案された議案については、委員の過半数の賛成で原案どおり承認された。

○ 委員からの意見

難波謙二会長

Carbon Neutral City Koriyama のスローガンは魅力的です。住民や事業者が個々の具体的課題に対応して市として実現を目指す原動力となることを願います。

リゾーム型施策体系は、多くの要素が複雑に関係しているということは了解しやすいので分かるような気がします。バックキャスト思考というのは未来で実現すべき姿から今を考えるとという説明があります。リゾーム型とセットになっている意味も分かります。柱＋2 で描かれる未来について強いイメージを目標として共有する必要があるそうです。

會田久仁子委員

- ・ 目標設定とロードマップ作り、ご苦労がしのばれます。大きく期待します。
- ・ S D G s について、くり返しくり返し市民に対する露出と説明が必要だと思います。

大場真委員

- 1 他の委員のご意見も参考にさせていただきたいのですが、今回策定する戦略の名称が「地球温暖化対策」というキーワードを軸となっていますが、国際的な気候変動に対する世論や、今回新たに気候変動に対する適応対策に関した計画も含むことを考慮すると、「気候変動対策」をキーワードとした方が、より理解しやすい名称となると考えました。
- 2 資料 6 における総合戦略の骨子について、施策体系は、カーボンニュートラルシティや持続可能な社会など、目標像である市や社会を指すので、目標像の語尾は「まち」とした方が望ましいのではないのでしょうか。施策そのものは「まちづくり」等で良いかと思います。
- 3 資料中に D X , E M S , Z E B , Z E H など、一般の市民にはまだなじみのない用語があるので、一般向け資料を作成される際には用語解説をつけるなど、親しみやすい計画とされる方がよろしいかと思います。

- 4 郡山市では先進的にSDGsに取り組まれており、議案第一号でも指摘しましたが、市全体として持続可能な社会づくりが行われているか総合的取組が必要であり、それを判断する評価が必要であると考えました。その第一歩として、2の指摘と関連して、施策体系と各施策がどのようにSDGsの各ゴールを達成し、相互に関連しているかという図を入れることが望ましいと思いました。

栢場龍子委員

(意見では有りません)

- ・ コロナ禍により、最近、主婦目線で感じている事が有ります。回りの人々の日常生活体型に変化が生じている様に思えます。冠婚葬祭の有り方、食(買い物)の有り方等々本当に微々たるものかもしれませんが、チリも積もればで。
- ・ コロナ禍により、何か温暖化対策にチャンスが潜んでいる様な気がするのですが(何かは、今は判りません)
- ・ 脱炭素型社会の取り組みも、大きく動いた国も有るようですが、私はまだまだ認識不足です。

高橋敦司委員

総合戦略やロードマップを策定しても、市民が「自分ごと」として捉えなければ意味がないものになってしまう。市民に対してわかりやすい説明と理解を求める努力をしてもらいたい。

出村さやか委員

■ 「将来像実現を支える柱(施策体系)」の表現について

『郡山市地球温暖化対策総合戦略(仮称)』の“ゴール”を示したものだと思いますので、「～なまちづくり」ではなく「～なまち」と言い切った方が、目指すまちの在り方＝将来像がはっきりと伝わると思います

■ 『郡山市地球温暖化対策総合戦略(仮称)』の名称について

以下の理由により、『郡山市民気候変動対策行動計画』あるいは

『郡山市民気候変動対策行動実行計画』としてはどうでしょうか？

- 1 地球温暖化は、戦略中の「気候変動適応対策」の“気候変動”の一側面であること、また、海外ニュースを見ていると一般的に「Climate Change(気候変動)」の表現を用いていることが多いことから、“地球温暖化”ではなく“気候変動”の用語を用いる。

- 2 行政だけでなく、市民、事業者も巻き込んだ取り組みと理解しています。

そうであれば、“総合戦略”という名称ですと行政色が強く出てしまうように思うので、主語を“郡山市民”に、また市民の行動を促す意図で“行動計画”や“行動実行計画”の表現を用いる。

■ 「将来像と実現を支える柱」や「施策・対策」をこのまま市民に示すのであれば、カーボンニュートラルや5レズ、DXの説明があった方が親切かな、と思いました。

橋本健委員

地球温暖化については、賛否両論があり、温暖化＝CO₂とも言い難いところもあるかと？

しかしながら、国内最大ともいわれる水素製造工場が出来ている福島県においてそれを遣わないことはマイナスと考えます。

北九州での実証実験のようなエネファームの利用拡大策も必要と考えます。

ゴミの分別に一言！

町内においてゴミの分別は、かなり徹底されているものと思われます。

しかし、企業のゴミ回収については、以前と何ら変わりはなく、パッカー車がまとめて回収していきます。

家庭や学校教育現場で分別の大切さを教えていても、社会に出た瞬間に無意味なものになってしまいます。

家庭のごみも企業のごみも最終処理は、一緒ですのでこの仕組みづくりをお願い致します。

長谷川啓委員

議案について異論はございません。

環境問題に関しては、長期的な観点からの対策が重要だと考えています。その意味でいうと、やはり次世代を担う、感受性豊かな子どもたちへの啓蒙活動は、環境問題への対策としては非常に重要なものではないかと思います。(既に実施されているものもあるとは思いますが、例えば、小学校等の生徒へのイラストを交えたリーフレットの配布、国立環境研究所等関係施設の見学等)。

現時点ですでに可能な限りのご尽力をいただいている職員の皆様にとっては、無責任かつ不遜な意見かとは存じますが、数字として見えにくい部分での環境対策についても、引き続きご検討いただければと思います。

古谷博秀委員

5 + 7 の 7 つの柱で削減の目標量を決め取り組む形は、それぞれの寄与度もわかりやすいと思います。一方、それぞれの温暖化ガス削減量を満たすためのより具体的な数字については、施策例から読み取るのが難しい項目もあり、難しい課題ではありますが施策との関係性も明確にできるとよりよいように思います。また、その施策の内、国、県、市の役割を設定したうえで、市民、事業者、行政の役割がわかると、市民としても何をやるべきか、市の行政としては何を目標とすべきかがわかりやすいように思える。

また、事業者については、これまでの取り組みにおいても積極的に取り組んでいるように見えることから、その新たな取り組みについてもどのように支援するかの観点も重要と思われます。その意味で、リゾーム型の体制、分析において、有機的に施策を検討いただくことが大事だと思います。想像するに、これには、市役所内の室や課の壁を来れることも必要になるとの認識です。是非、リゾーム型の体制での有効性が発揮できる形を模索、形成いただけると、と思います。

三浦吉則委員

温室効果ガス排出削減目標等、将来像における目標で、とくに、2050 年度までに実質ゼロの国や世界を上回る目標を設定されたことは、今後、郡山市が重点的に進めていく施策であることを表明されていると感じ、素晴らしいと思いました。

湯浅大郎委員

- ・ 「再生エネの活用と水素社会の実現に取り組むまちづくり」の推進に関して、新規風力発電計画の実施に際しては、希少猛禽類のバードストライクを回避することに止まらず、計画地の生物多様性を保全する観点から十分な環境影響評価を行うようお願いします。
- ・ 同じく「再生エネの活用と水素社会の実現に取り組むまちづくり」推進に際して、いわゆるメガソーラーの設置に際しても十分な環境影響評価を実施することとあわせて、計画実施によって現在の自然景観が大きく損なわれることのないよう、（関連条例の整備等を含め）適切な指導をお願いします。
- ・ 「地球環境の整備・発展による便利で快適なまちづくり」の推進に関しては、2018 年 11 月、郡山商工会議所が設置したプロジェクトによる「郡山グランドデザイン」が発表されていることから、その中にある地球温暖化対策に有用な提言（L R T の整備など）の実現可能性について、先進地視察を行うなどして研究することを提案します。現状、商業所と市の連携はやや希薄であるように感じます。
- ・ 「限られた資源を活用する循環型まちづくり」の推進に関して、新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言発出の影響等により増大した家庭ごみの排出量を減量する観点からは、指定ごみ袋の購入等によるごみ処理有料化の可能性を探ることも必要であると考えます。また、高齢者等にとって複雑で実行しにくい現在のごみ分別のルールを大幅に簡素化できないか、簡素化のために必要となるインフラの整備等も含めた検討が必要であると思います。